

JAなんとの令和4年産大麦の単収は344kg/10aとかなり多くなりました。

今年も排水対策を徹底し、収量向上を図りましょう。また、前年産で倒伏した場合は、播種量と施肥量を遵守しましょう。

- ① ほ場は早生跡を基本とする。
- ② 排水対策をすぐに実施する。
- ③ 深さ30cm以上の額縁排水溝を必ず設置する。
- ④ 播種量と施肥量は基準量とする。

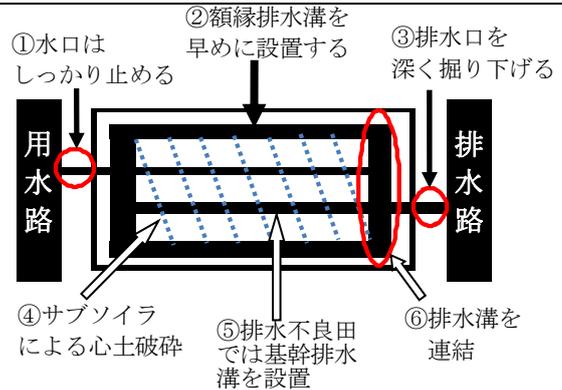
根が少ないと、肥料を十分吸収できない



額縁排水溝の有無と根の違い
 (H30: 止葉展開期)

1 排水対策

- ・スクリーオーガ等で額縁排水溝を設置し、排水口としっかり連結しましょう。
- ・サブソイラで心土破碎を2~3m間隔で行い、ほ場の排水性を高めましょう。
- ・排水対策を実施しても乾かない場合は、乾燥しているほ場へ切り替えましょう。



2 土壌改良資材、基肥

土壌改良資材等	
資材名	施用量(10a当り)
① シェルホス	100kg
② 苦土石灰	100kg
+ 粒状熔燐	40kg
堆きゅう肥	2t

基肥		
	基肥名	施用量(10a当り)
肥効調節	エコ大麦44号※	側条 40~45kg
	Jコート大麦48号	側条 45kg
分施	基肥30※	側条 30kg
		全層 35kg

※R5産から採用

★エコ大麦44号とJコート大麦48号の仮比重はほぼ同じ

★昨年、倒伏した場合は施肥量を減らす

3 種子消毒 ~いずれかの方法で消毒しましょう~

(1) 温湯消毒

- ・お風呂を使用: 42℃の湯に浸漬、10時間処理 (1時間に1℃下がるようにフタ等で調整)
- ・循環式催芽器を使用: 45℃、2時間30分処理

(2) 薬剤粉衣

- ・ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%の割合で均一に粉衣する。
 (乾燥種子10kgを水200mlで湿らせて、薬剤50gを均一に混和する。)

4 播種作業 ~乾いたほ場から始め、10月上旬までに終わる~

(1) 播種量

- ・播種時期に応じた播種量を厳守しましょう。
- ・降雨などで播種が遅れる場合は播種量を増やしましょう。

(2) 耕起、畦立て

- ・耕起作業はゆっくりと行い、土を細かくし、出芽・苗立ちを向上させましょう。
- ・畦幅は3m以内とし、深さ20cm以上の排水溝を掘り、額縁排水溝に確実に連結しましょう。
- ・播種作業後は溝と排水口を連結するなど、溝の手直しを必ず行いましょう。

表 播種量の目安

播種時期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月25~30日	140	6.0	6.5
10月1~10日	150	6.5	7.0
10月11~20日	200	8.5	9.0